

種名	<p style="text-align: center;"><u>アカミミガメ</u></p> <p style="text-align: center;"><u>Trachemys scripta elegans</u></p> 
分類	カメ目ヌマガメ科アカミミガメ属
俗称	子ガメはミドリガメ(緑亀)と呼ばれている。
形態的な特徴	オスよりメスの方が大きくなり、背甲長は最大でオス 23cm、メス 28cm 前後である。目の後に赤い帯があるのが特徴で、名前の由来にもなっている。背甲には1本の隆起があり、後縁には弱い鋸歯がある。背甲は緑褐色で、各甲板には幅広い黒の帯模様と、これと平行した黄緑模様とがあるが、成長するにつれ徐々に黒っぽくなり模様も不明瞭となる。
分布	アメリカ原産の帰化種であり、本州、四国、九州、沖縄島、小笠原父島に定着している。
繁殖行動	成熟したオスは前肢の爪が長く伸び、メスの前で指をふるわせて求愛ディスプレイを行なう。国内の野外での繁殖生態は明らかではないが、飼育下では5月中旬～8月上旬にかけて平均して年3回産卵し、年間産卵数は平均すると約26個との報告もあり、在来種のクサガメやイシガメに比べて多い。
生息場所	泥底で水草が繁茂するような環境を好み、河川の中・下流域や低地の湖沼をおもな生活場所としているが、寺社や公園の池などの人為的な環境にも定着している。塩分への抵抗力も高く、しばしば汽水域にも生息する。
食性	雑食性であるが、幼体では水生昆虫などの動物質の割合が高く、成体では水草などの植物の割合が高いといわれている。
生息環境への配慮事項	原産地はアメリカ合衆国南部からメキシコ北東部にかけてであるが、ペットとして養殖個体が世界的規模で流通している。日本では昭和30年前後に輸入が始まり、その後、ペットとして飼育されていたものが逃げたり捨てられたりして野生化し、現在では各地で定着している。本種は帰化種であり、とくに保全の必要はない。むしろ、さまざまな動植物を食べ、強健な種類であることから、クサガメやイシガメなどの在来のカメや生態系への影響が危惧されており、輸入・流通などへの規制が必要である。
引用文献： <a href="http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html">http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html</a> を改変	